



JASDAQ

平成 27 年 3 月 16 日

各 位

株式会社 大塚家具
代表取締役社長 大塚 久美子
(JASDAQ・コード番号 8186)
問い合わせ先
総務部法務担当部長 番 英一
電話 03-3599-3267

第 44 回定時株主総会における ISS 社 (Institutional Shareholder Services Inc.) による 会社側役員選任議案への賛成推奨および株主提案議案への反対推奨について

平成 27 年 3 月 27 日に開催予定の当社第 44 回定時株主総会に付議する議案につきまして、議決権行使助言会社 ISS 社 (Institutional Shareholder Services Inc.) が、3 月 13 日付の同社レポートにおいて、3 月 12 日付グラスルイス社のレポートと同様に、結論として会社提案による役員選任議案 (第 2 号議案および第 3 号議案) に賛成推奨を、株主提案による役員選任議案 (第 5 号議案および第 6 号議案) に反対推奨をしていることを確認いたしました。

ISS 社のレポートに対する、当社の見解は下記の通りです。

記

まず、ISS 社は、2008 年から 2009 年にかけてのリーマンショック後の世界的な金融危機、2011 年の東日本大震災、2014 年の消費増税といった外部環境の変化による影響が大きいため、提案株主および大塚久美子社長それぞれがリーダーシップをとっていた期間の当社業績を単純に比較することは難しいと述べながらも、2008 年以後 2013 年まで大塚久美子社長が経営の実権を握っていた間の業績を見ると、売上高の推移に大きな変化がないものの、ROE と純利益に確かな増加が認められると分析しています。

一方、ISS 社は、提案株主の企業価値向上策について、経営環境の変化に伴うマーケティング戦略の重要性を指摘した上で、当該企業価値向上策は、基本的には過去に同氏が行ってきた施策を再度行うものであり、メディア環境の変化にもかかわらず従来型の広告宣伝手法を継続する理由の説明を欠き、その中で示された高い数値目標の実行可能性について説得力のある説明がなされていないと指摘しています。

また、取締役会の構成については、会社提案の候補者には、ブランド戦略の専門家、国内外における豊富な経験を有するマーケティング・コンサルティングの専門家、トップランクのアナリストとしての経歴を有する小売業界のコンサルタント、百貨店事業のエキスパート、社外取締役としての経験を有する金融専門家などが含まれていることから、会社提案の取締役候補者が株主提案の取締役候補者よりもより充実した経験を有するという印象はぬぐいがたいと指摘しています。また、会社提案の独立社外取締役の比率が 60%であることに対し、株主提案では 50%にとどまることのほか、コーポレートガバナンス・コードの中で述べられている多様性の促進という観点から、会社提案では女性取締役の比率が 30%を占めるいっぽう、株主提案ではゼロであることも指摘されています。

ISS社は、結論として、大塚久美子社長が外部環境の変化を正しく把握し、その変化に対応しうる経営戦略を掲げ、またその実行が可能な社外取締役候補の陣容を擁立していること、これに対して、提案株主の企業価値向上策には、説得力のある根拠が乏しいことから、会社提案への賛成を推奨しています。

当社は、ISS社が、上記のように、当社定時株主総会議案に関連して、会社提案と株主提案を具体的かつ客観的な論拠をもって適切に評価分析した上で、会社提案の役員選任議案に賛成を推奨し、株主提案の全ての議案に反対を推奨したことを踏まえ、株主の皆様におかれましても深慮ある議決権の行使をお願いしたいと存じます。

以上